

- 爲サシメ、爾後大小便排泄ノ都度消毒藥ヲ撒布シ又消毒藥ヲ以テ洗手セシムルコト
- (二) 患者ハ其ノ症狀ニヨリ移轉シ難キモノヲ除クノ外總テ病院病舎ニ收容スルコト
- (三) 看護婦消毒人夫等ハ常時一定ノ給料ヲ與ヘ患者發生ノ場合ニ於テ支障ナカラシムルコト
- (四) 醫師ヲシテ「ヴァイダール」反應診斷法ヲ普ク勵行セシメ患者ノ診定ヲ速ナラシムルコト

第六 德 島 縣 (大正十二年三月調査)

一 患者發生狀況

一、大正九年ニ終ル既往十ケ年ニ於テ爾發生狀況

人口萬ニ對スル患者ノ發生率ヲ全國ノ其レト比較スルニ本縣著シク低シ、即チ年ニ依リ異ナルモ約五十分ノ一(大正元年^{本縣〇・一〇}全國^{五・九五})乃至約二分ノ一(大正八年^{本縣〇・〇七}全國^{一・〇七})ナリ、十ケ年ヲ通シテハ平均約七分ノ一(本縣^{一・二一}全國^{七・五二})ニ過キス、但シ近年漸次増加ノ傾向アリ

患者ノ死亡率ハ全國平均ノ其レト略同シ
 本縣人口萬ニ對スル腸チフス患者ノ發生率カ全國平均ノ其レニ比シテ上記ノ如ク著シク低キ原因明ナラスト雖、茲ニ附記スヘキハ腸チフス患者ノ隱蔽ト腸胃熱(德島熱トモ謂フ)ナル疾病ニ關スル事項ナリトス、抑モ腸胃熱ノ名稱タルヤ今ヨリ二十餘年前約一週間持續スル熱ヲ有スル淋巴腺腫脹ヲ伴フ死亡率ナキ一種ノ傳染性疾患ニシテ、細菌學的検査上腸チフス又ハ「バラチフス」ニ非サル病名不明ノ疾患ニ對シテ當時德島市ニ新ニ開業セル某々二醫師ノ命名セルモノナリシカスル真個ノ所謂腸胃熱ハ其ノ數多カラズ、且爾來漸次其ノ發生減少シテ今ヤ殆^ト之ヲ

見サルニ至レルニ拘ラス之カ名稱ハ往々開業醫ノ利用スル所トナリテ腸チフス患者ニ腸胃熱ナルノ病名ヲ附シ之カ届出ヲ爲ササルモノアルヤヲ疑ハシムルモノアリ、又一般民衆モ衛生思想ノ程度低ク隱蔽ノ風盛ナリシヲ以テ此等ノ弊ヲ除カンカ爲縣當局ハ大正七年腸チフス疑似症ニ對シ傳染病豫防法ノ全部ヲ適用スルコトトシ、以テ腸チフス豫防ノ實績ヲ擧ケント企テタリ其ノ効果稍見ルヘキモノアルニ至レルカ如キモ尙隱蔽ノ風比較的盛ナルカ如シ

二、大正十一年ニ終ル既往三ケ年ニ於ケル市郡別流行狀況

大正九年ニ於テハ縣下ヲ通シテ人口萬ニ付二・三ナリシカ、之ヲ市郡別ニ見ルニ最高カリシハ名東郡ノ六・一、勝浦郡ノ五・九ナリ、全ク發生ヲ見サリシハ海部、阿波、美馬ノ三郡ナリ
 大正十年ニ於テハ縣下ヲ通シテ人口萬ニ付一・五ナリシカ、之ヲ市郡別ニ見ルニ最高カリシハ美馬郡ノ三・二、德島市ノ二・九ナリ、全ク發生ナカリシハ海部、名西ノ二郡ナリ
 大正十一年ニ於テハ縣下ヲ通シテ人口萬ニ付一・七ニシテ之ヲ市郡別ニ見ルニ最高カリシハ德島市ノ五・七、板野郡ノ三・九ナリトス、全ク發生ヲ見サリシハ那賀、阿波、三好ノ三郡ナリ
 以上患者發生率高カリシ諸郡ニ於ケル流行狀況ヲ見ルニ概シテ家族傳染多キカ如キハ衛生思想幼稚リシテ隱蔽ノ風アルニ因ルモノ多キカ如シ

三、大正十一年ニ終ル既往三ケ年ニ於ケル主要流行町村

全町村中年々患者十名以上ノ發生ヲ見タルハ板野郡板西町ノ一ノミ、今同町ニ於ケル流行狀況ヲ摘記スレハ左ノ如シ

板野郡板西町ハ德島市ノ北西約三里ノ地ニアリ、地勢山麓ニ位シテ南ニ傾斜シ人口約六千ヲ有

患者發生狀況ハ大正七年八月以降ヲ見ルニ三回ノ流行ヲ呈セリ即チ第一回ハ大正七年八月ヨリ同八年九月ニ涉リテ患者一〇二名ヲ出シ第二回ハ大正十年六月ヨリ十一月ニ涉テ二七名ヲ第三回ハ大正十一年七月ヨリ十二月ニ涉リテ一名ヲ出セリ之カ流行ノ原因ヲ釋スルニ一ニシテ止マラスト雖一般ニ本病ヲ輕視シテ豫防措置ヲ講セス隱蔽ノ風盛ナルカ如キ一原因ナルヘク又同町飲使水ノ狀況ヲ見ルニ飲使用ニ供スラルルカ如キ流水ハ概シテ之ヲ見サルモ相互隣接井戸ノ地下水ノ交通頗ル密ナルカ如キヲ以テ一井戸傳染病毒ニ汚染サレンカ附近隣接井戸ニ病毒廣ク蔓延シ易キコト亦一原因タルヘシ又由來同町民ノミナラス同縣人ハ赤痢ニ對シテハ豫防接種ヲ受クル等之ヲ恐ルルコト大ナルモ本病ニ對シテハ多クヲ願ミサルノ風アルカ如キハ他ノ原因ト相俟ツテ患者發生ノ絶エサル原因タルヘク頗ル遺憾ナリ

本病ニ對スル町民ノ理解程度前記ノ如クナルヲ以テ的確ナル豫防措置ヲ講スルコト難キモ要スルニ衛生智識ノ啓發ヲ計リ飲料水ノ改善(簡易水道敷設ノ如キ)ヲ要スルモノト認メラル

二 豫防施設

一、患者早期發見方法

夏季一定期間必要區域ノ檢病的戸口調査ヲ勵行シ又警察官吏ニシテ傳染病患者ヲ發見セルモノアル時ハ警察賞與金ヲ與ヘツツアリ其ノ他開業醫師ニ對シ診斷液竝ニ膽汁培養器ヲ配付スルノ方法ヲ講スル等ヲ爲シツツアリト雖成績ノ見ルヘキモノ尠シ

二、材料検査ノ狀況

腸チフス患者早期診斷ノ爲メノ材料検査成績ハ一般ニ見ルヘキモノナシ上記膽汁培養器ノ配付ノ如キ大正十一年以降之ヲ爲シツツアルモ開業醫師ヨリ膽汁培養器ニ付キ検査ヲ請求シ來レルモノハ同年四件翌十一年六件本年ハ三月迄ニ二件ニ過キス膽汁培養器ヲ外ニシテ開業醫師ヨリ検査材料ヲ送附シ來ルモノハ大正十年六件(血液三、發泡液三)大正十一年四件(血液二、血清一、發泡液一、尿二)ノミナリ而シテ此等ノ細菌検査機關ハ縣廳内ニ一アルノミナリ

三、病原體保有者ノ取締

患者退院退舍ニ際シテハ材料検査ヲ爲セルコトナシ醫師會ニ對シテハ解熱後二週間ハ治癒届ヲ出ササルコトニ協定シアリ

健康病原體保有者ノ調査ヲ爲セルコトナシ

四、消毒所消毒班ノ設置

設置ナシ

五、療養隔離ノ狀況

大正五年迄ハ絶對收容ノ方針ナリシモ斯クテハ患者之ヲ忌避スルノ結果延ヒテハ隱蔽サルルニ至ルモノ尠カラサルヘキヲ慮リ同月自宅療養許可標準ヲ規定シテ或程度迄自宅療養ヲ容認スルコトトセリ大正九年ニ於ケル自宅療養患者ハ全患者ノ約三割ニ當レリ

六、飲料水、家用下水ノ改良狀況

イ、上水道ノ敷設アルハ三好郡池田町アルノミ、徳島市ハ目下計畫中ニ在リ
ロ、千戸以上ノ共同井戸掘井、鑽井ノ改良ニ對シテハ大正六年以降縣ヨリ工費ノ二分ノ一ヲ補助

シツツアリ、右ニ基キ改良ヲ完成セルモノ同年七月ヨリ大正十一年末迄二十三件ニシテ一千四百八十五圓ヲ補助セリ

ハ、徳島市及板野郡撫養町ニ於テハ飲料井水ノ水質概シテ不良ナルモノ多ク爲ニ兩市町共一定ノ飲料水販賣人カ數個ノ良水源ヨリ飲料水ヲ汲ミ取り、一荷三錢乃至五錢ヲ以テ兩市町民ニ販賣シツツアリ、徳島市ニ於テ斯ル飲料水ヲ購入シツツアルモノハ市民ノ約五分ノ一ナリト云フ、飲料水販賣人ニ對シ特別ナル防疫上其ノ他ノ注意ハ特ニ之ヲ爲シ居ラサルカ如キモ必要ナリト思料セラレ

七、豫防接種施行ノ狀況

縣ヨリ獎勵シテ施行セルカ如キ事實ナシ

八、蠅驅除ノ狀況

特記スヘキモノナシ

九、豫防智識ノ涵養方法

從來巡回衛生展覽會及活動寫真會等ヲ開催シ來レルカ昨年以來主トシテ「ポスター」宣傳ノ外特ニ一般衛生講話會及家庭衛生講話會ノ開催ニ努メツツアリ、此等講習會ハ既ニ昨年中四回、本年ニ入りテ三月迄ニ六回ヲ開催セリ、講習期間ハ約一週間宛ニシテ、講習員ハ一般衛生講習ニアリテハ郡市町村吏員、警察官吏、衛生組合役員等トシ、家庭衛生講習會ニアリテハ婦女子トス

十、傳染病豫防費

大正十一年ニ終ル最近三ケ年度ノ傳染病豫防費左ノ如シ

年度	種別	縣費支出額	國庫補助額	備考
大正九年度		七二、三九九 ^四 ・六八〇	八、八五四 ^四 ・七三〇	
大正十年度		七五、二七八・九七〇	一一、一八〇・八一〇	
大正十一年度		四四、〇三〇・〇〇〇	七、三三九・〇〇〇	豫算額

十一、傳染病院、隔離病舎設置ノ狀況

本縣ニハ隔離病舎ト名ケラレタルモノナク何レモ傳染病院ナリ、其ノ數百三十九個アリ、即一町村ニシテ傳染病院三個ヲ有スルモノ三、同上二個ヲ有スルモノ七、同上一個ヲ有スルモノ一一五、外ニ三ヶ町村聯合組合病院一アリ、而シテ全ク之ヲ有セサル町村ハ僅ニ一一ニ過キス、各病院ノ建築様式ハ何レモ略一定シ規模比較的大ナリ
蓋斯クノ如ク規模比較的大ナル病院ノ良ク普及セルハ他府縣ニ多ク之ヲ見サル所ニシテ、コレ一面本縣ハ從來赤痢患者ノ發生甚カラスシテ縣民同病ノ恐ルヘキコト並ニ之カ豫防上相當規模アル病院建設ノ必要ナルヲ自覺セルト他面縣當局ハ工費ノ二分ノ一ヲ補助スル等、之カ指導宜キヲ得タルニ依ルヘシ、然レトモ近時往々ニシテ腐朽ニ委スルモノアルカ如シ

十二、傳染病院、隔離病舎ヘ入ラシメラレタル患者ノ食費、藥價徴收狀況

十三、其ノ他參考トナルヘキ特種施設

本縣ニ於テ特殊施設トモ稱スヘキ相當規模アル傳染病院但實質ニ於テハ隔離病舎ニ屬スヘキモノナリノ普及セルコト是ナリ

十四、豫防施設ニ關スル今後ノ方針

年々患者發生スルカ如キ町村ニ對スル病原體保有者ノ檢索豫防液ノ無償配付等ヲ試ントスト云フ

第七 福岡縣 (大正十年八月調)

一 患者發生狀況

一、大正九年ニ終ル既往十ヶ年ニ於ケル發生狀況

患者數ハ大正五年迄漸次増加シタリシカ大正五年ハ死亡率著シク低下シタルヲ以テ輕症者モ良ク届出ラレタルモノト見做シ得ヘクンハ大正四年迄漸次増加セルモノト認ムヘシ其ノ後大正六七年ハ兩三年前ノ狀況ニ戻リ大正八年ハ他府縣ト等シク流行性感冒ノ影響ヲ受ケテ患者數劇增シ死亡率亦相當ニ高カリシモ大正九年ニ至リテハ大正四年ノ數ニ減シタルハ比較的努カノ跡ヲ認ムヘシ

本縣腸チフス患者ハ二十歳以上三十歳以下ニ特ニ著シク多キハ炭坑勞働者ニ多キト一致スルニ非ルヤ之ヲ大正九年ノ患者職業別ニ見ルニ鑛業ハ全患者數ノ約四割ヲ占メ農業ハ二割強ナルニ然モ本縣下住民ノ職業ハ大部分農業ニシテ鑛業ハ大略四分ノ一ナル人口ヲ占ムルモノナルニ對比シ炭坑關係ニ依ル發生ヲ推想セシム

二、大正九年ニ終ル既往三ヶ年ニ於ケル市郡別流行狀況

大體ニ於テ門司八幡若松ノ三市ニ多ク之ニ次ク浮羽筑紫嘉穂田川ノ山地諸郡ニシテ炭坑多

キ地方ナリトス

單ニ患者數ヨリ見レハ田川郡嘉穂郡等本縣ノ中央炭坑地帯ニ多キモ人口對患者數ヨリ見レハ田川郡三潯郡浮羽郡嘉穂郡ノ順ナリ

以上ハ統計表ニ現ハレタル患者數ヨリノ觀察ナルモ實際患者ノ多寡ハ斯ク單調ナル觀察ヲ許サス即チ患者數キモ死亡率高キ地方ハ必スシモ患者數尠シト謂フヘカラス之ヲ數量的關係ニ表シ得サルカノ點ニ種々考慮シタル結果人口萬ニ對スル患者ト患者百ニ對スル死亡トヲ合シタル假數ノ順ハ恐ラクハ真相ヲ現ハシ得ンカト考ヘ大正九年ノ患者數ニ付キ之ヲ試ミタル結果ハ門司市八幡市ヲ最トシ浮羽郡小倉市之ニ次ケリ本縣腸チフスノ發生ハ概シテ山地ニ多ク而モ炭坑ノ存在スル地方ニ多シ海岸諸郡ニアリテハ炭坑ヲ有スルモノノ外ハ概シテ患者尠シ

三、大正九年ニ終ル既往三ヶ年ニ於ケル主要流行市町村

年々患者多發スル町村ハ殆ント皆炭坑所在町村ニシテ其ノ關係左表ノ如シ
炭坑民ト地方民トノ間ニ於ケル腸チフス患者死者發生比較表(其ノ一方ノミニ發生セル) (町村ハ計算時除外セリ)

年次	町村數	炭坑民別	人口	患者	人口萬ニ對スル患者率	死亡	死亡率%
大正七年	七	炭坑民	四〇〇、〇四七	二八三〇	七・一三	六一二	四〇・〇〇
同八年	一一	炭坑民	七三、二七七	一〇四	一・四二〇	一八五	二八・五〇
同九年	一一	炭坑民	六四、五八五	六四九	一〇・四九	一七一	二〇・九八
計	二九	炭坑民	二〇八、九九二	一、三五一	七・八〇九	三二五	二七・八三

即チ炭坑所在地ノ地方民ニハ毎年人口萬ニ對シ七人乃至十四人ノ發生ニシテ三ヶ年平均ハ八人弱ナルニ炭坑民坑夫及家族等ヲ含ムニハ毎年地方民ノ十倍近ク發生シ三ヶ年平均ニ於テ亦十倍ニ當レリ

四、大正十年ニ於ケル主要流行市町村

同年一月以降八月二十三日迄ニ於ケル患者發生多キハ福岡市ノ二一三名ヲ最トシ、粕屋郡志免村ノ一三名、大牟田市ノ六八名之ニ次ケリ、福岡市ヲ別トシテ粕屋郡志免村及大牟田市ニ於ケル流行ニ付實地視察セル狀況左ノ如シ

(一) 粕屋郡志免村

同村ハ年々患者ノ發生アリ、昨年及本年(八月二十四日迄)ノ狀況左ノ如シ

炭坑關係	海軍炭坑	山炭坑	粕屋炭坑	計
炭坑關係	七三〇	九一五	八七六	二、五二一
戸數	三、一六三	三、八二九	四、五三五	一一、五二七
人口	一〇四	一	六	一一〇
大正十年患者	一四	一	一	一四
現在(八月廿四日)患者	二四	一一	五	四〇
大正九年患者				

本年ノ患者中海軍炭坑ノ分ハ既ニ二月初旬ヨリ一、二名宛炭坑納屋中ニ散發シタリシカ同月下旬二十餘名ノ勃發アリ、爾後各納屋ニ發生セルモノナリ、炭坑以外ノ村落六名ノ散發ハ炭坑附近接續家屋ニ多シ

流行ノ原因ニ付テハ種々アリト雖納屋ノ便所ハ開放セラレ且設備位置不良ナリ、水ハ雜用水

ハ他ヨリ求ムルト雖良水ハ一井戸ヨリ百戸ニ供給セラルル狀況ナルヲ以テ水不足ノ爲各種ノ清潔ハ保タレズ、且炭坑内ニハ當時防疫的機關ノ存在セサル爲當初少數患者發生時早期隔離、便所ノ持續的消毒、飲料水等ノ取締等適當ノ豫防措置ヲ講セサリシニ因ルモノナリ、蓋福岡縣下炭坑腸チフス流行ハ何レモ殆ント右ト同一事情ニアルヘク、本縣腸チフス豫防ハ此點ニカヲ注ク時初メテ實績ヲ擧クルヲ得ヘシ

豫防措置トシテハ海軍炭坑ニアリテハ醫員及事務防疫係員毎日健康狀態視察ヲ行ヒ疑ハシキモノハ納屋ノ一部ヲ區劃シテ移住セシメ別ニ一部ヲ病室トシテ區劃セリ、志免村ハ本年腸チフスノ爲既ニ四千三百三十八圓ヲ支出シ居リ、同村戸數割負擔戸數二千五百戸中普通額ハ千四百戸ニテ他ノ千百戸ハ十分ノ四ノ負擔割トナリ居リ、此等減額負擔ノ殆ト全部ハ炭坑ナルヲ以テ同村ハ流行ノ源ヲ炭坑ニ發シ村費費消ヲ炭坑ニ於テ負擔シ然モ炭坑ノ村費負擔額ハ僅少ナリ、且國稅鑛業稅及鑛區稅ニ附加シ得ル村稅額ハ制限内ニテハ僅少ナルヲ以テ同村ハ實ニ炭坑ニ煩ヒセラレルコト多キ外僅少ノ副産的繁榮ニ惑ハサレ居ル狀況ナリ、獨リ本村ノミナラス炭坑ニ於ケル腸チフスノ豫防策トシテハ、第一ニ鑛業監督ノ責ニ任スル官憲ノ發勳ニ俟ツヘキモノ多ク、勞働者保護ノ上ヨリ見ルモ各炭坑ニハ常時相當療養設備ト傳染性疾患ニ對スル隔離療養設備ヲ有セシムヘク、又縣ニ於テハ炭坑醫局ヲ連絡セル醫事衛生上ノ機關ヲ設ケ縣技術員之カ中心トナリ常ニ指導督勵ヲ爲ス等ハ極メテ必要ナリト思料セラル

(二) 大牟田市

大牟田市ハ本縣南端熊本縣境ニ接シテアリ、戸數約一萬一千、人口約七萬一千ヲ有シ、三井經營

大牟田炭坑並ニ附屬工場アリ、此等職工約一萬ニシテ之ヲ家族ヲ加フルトキハ本市人口ノ約三分ノ二ハ此等ノ人々ニ依リ構成セラル、土地低濕民度低ク街衢ノ衛生施設亦極メテ不完全ナリトス

各種傳染病年々多發シ腸チフスノ如キ亦多ク大正十年八月廿五日迄ニ百五名ヲ發生セリ、之カ發生狀況ヲ見ルニ患者相互間ニハ何等ノ系統ナク市内ニ散發シ、現在ノ流行地ノ如キハ市ノ中央部ニシテ土地殊ニ低濕ニシテ生活程度亦低ク納屋の家屋多ク、便所共用并戸不完全ニシテ道路溝渠ノ排水亦不良ナリ、現在腸チフス患者四十一名内三十五名ハ病院へ收容シ六名ハ自宅治療中ナリ、炭坑ニハ其ノ醫局及病院アリテ傳染病患者ヲ之ニ收容隔離セルト市内ノ流行ハ必スシモ炭坑ノ餘映ニ非サルノ二點ハ他ノ炭坑地町村ト越テ異ニセル處ナリトス

本市腸チフス流行ハ便所并戸ノ共同病人見舞等之カ原因タルヘク醫師届出ノ風習亦不良ナルカ如ク患家ノ隱蔽亦相當存在スルカ如シ、豫防措置トシテハ縣ヨリ防疫醫一名ヲ派遣シ置クノ外特殊ノモノナシ、豫防接種ノ如キモ行ハス、蓋シ斯クノ如キ地方ニ對シテハ上下水ノ完備溝渠ノ整理、便所ノ改良ノ如キ當然行フヘキハ勿論ナルモ差當リ醫師ノ早期消毒ヲ勵行實現セシムルヲ必要トス

二 豫防施設

一、患者早期發見方法

イ、診斷液ノ無償配付ハ大正十年七月ヨリ開始シ郡役所へ町村數ニ應シテ豫メ配付シ置キ醫師會ト連絡セシメ居レリ

ロ、本年七月縣ニ於テ方針ヲ定メ早期届出獎勵ノ爲或場合ハ自宅治療ヲ許可スルコトトシ之カ諒解打合ノ爲各郡市醫師會ヲ招集シ當局親シク巡回打合セタルコトアリ

ハ、腸チフスノ診斷ハ臨床症狀ニ依ルヲ原則トナシ居ルモ、縣ニテハ出來得ル限り開業醫師等ノ依頼ニ依リ材料検査ヲ行ヒ居レリ

ニ、檢病調査ハ流行地ニ流行時ヲ限局シテ之ヲ行フノミ

二、材料検査狀況

イ、本廳細菌試驗室ハ比較的良ク完備シ技師一名、防疫醫二名常時從事シ診斷液豫防疫ノ製造等ニ活動シ居レリ

ロ、材料ハ醫師ヨリ便宜依頼シ來ルモノヲ検査ス

ハ、材料検査施設ハ増設ノ必要ヲ認メ目下改築中ノ門司傳染病院内へ検査室ヲ縣費支辨ニテ建設シ醫員ノ俸給半額ヲ縣ヨリ補助費ヲ通シテ支給シ以テ門司方面ノ材料検査ヲ爲スコトトセリ

三、病原體保有者ノ取締

患者退院退舍後ニ於ケル持續的便池ノ消毒等ニ關シテハ單ニ郡市長ノ注意事項ニ止マレリ

但三井郡山本村民ニ對シ本年三月病原體保有者ノ檢索ヲ行ヒ四名ヲ發見シテ其ノ處置ヲ爲セリ

四、消毒所、消毒班ノ設置

設置ナシ

五、療養隔離ノ狀況

イ、從來腸チフスノ殆ント全部病院病舎收容ヲ爲シ居リ、自宅療養ヲ許セシハ特殊ノ場合ノミニシテ一ケ年ヲ通シテ數名ヲ出テス
 ロ、病院病舎ニ收容セル患者ノ治療ハ大部分町村醫ヲシテ之ヲ爲サシムルモ往々主治醫受持ノモノアリ

六、飲料水、家用水、下水ノ改良狀況

上下水ニ就テ積極的ニ改良督勵等ノ事績ナシ

七、豫防接種施行ノ狀況

豫防液ハ縣ニ於テ製造シテ無償配付ヲ爲シ毎年五萬乃至八萬人ニ施行シツツアリ
 八、蠅驅除ノ狀

三井炭坑ニテ「蠅取デー」ヲ定メ賞品ヲ與ヘテ捕蠅ヲ獎勵セルコトアリ
 九、豫防智識ノ涵養方法

豫防智識ノ涵養ニ就テハ毎年一回各郡市ニテ主任者ヲ召集シ二日間位宛主トシテ消毒方法ニ關シ巡回講習ヲ爲シツツアリ

十、傳染病豫防費

大正九年度ニ終ル既往三ケ年度ノ狀況左ノ如シ

年度	種別	縣費支出額	國庫補助額	備考
大正七年度		七〇、五七九・六〇	一一、七六三・〇〇	
同八年度		一一九、四〇八・一〇五	一九、九〇一・〇〇〇	
同九年度		二二八、六四四・七一〇	三六、四四〇・〇〇〇	「コレラ」ノ爲傳染病豫防費劇増セリ

十一、傳染病隔離病舎ノ設置及管理ノ狀況

傳染病院、隔離病舎ハ全縣下三百二十六ケ町村ニ對シ三百五十四ケ所アリ、縣ノ調査ニ依ルニ右ノ内稍完備セルモノハ百八十一ケ所ニシテ改築ノ要アルモノ百七十三ケ所ナリト云フ、病舎建築ニ對スル縣費補助ハ六分ノ一ニシテ一般豫防費ニ對シ五分ノ一ヲ補助セルノ點ハ他府縣ト異レリ

炭坑ニテ自營ノ隔離病舎ヲ有スルハ僅ニ數ケ所ニ過キス

福岡市立傳染病院及築上郡東吉富村隔離病舎ヲ實地視察シタルニ、其ノ設備及管理ハ前者ハ可後者ハ全ク不可ナルヲ認メタリ

十二、傳染病院隔離病舎ヘ入ラシメタル患者ノ食費、藥價徴收狀況
 之ヲ徴收シ居ルモノ縣下七市中三、三百三十六ケ町村中九一ナリ

第八 熊本縣 (大正十年八月調査)

一、患者發生狀況

一、大正九年ニ終ル既往十ケ年ニ於ケル發生狀況

患者數ハ大正五年迄ハ漸次増加シ、死亡率概シテ低ク、大正六年ニ至リ俄然半減シ而モ死亡率却

ツテ幾分ノ減少ヲ見タリ、其ノ原因ニ付テハ各方面ヨリ調査スルモ特筆スヘキモノヲ得ス、恐ラクハ前年ノ患者増加ニ鑑ミ會食禁止、早期隔離等ノ能ク行ハレタル等主因タラサリシカ、而シテ患者ノ發生ハ翌七年愈減少シテ大正五年ノ約三分ノ一ニ當リシカ、大正八年再ヒ倍加シタルハ全國的ナリシ流行性感冒ノ影響ナリシナルヘク、翌九年ニハ更ニ發生増加シタルモ而モ死亡率ハ激減セルハ輕症患者ト雖能ク數ヘ上ケラレタルニ因ルヘシ

二、大正九年ニ終ル既往三ヶ年ニ於ケル市郡別流行狀況

患者發生ノ最多キハ熊本市ヲ圍繞セル他託郡ニシテ、毎年各郡市中ノ第一位又ハ第二位ヲ占ム之ニ次クヲ八代郡トス、其ノ他大正七年ノ天草郡、大正八年ノ玉名郡、大正九年ノ球磨郡等アルモ各年ヲ通シテ相當多數ノ發生ヲ見ツツアルハ山地ナル阿蘇郡ナリトス、要之本縣下ノ流行ハ概シテ山地諸郡ニ多ク海岸諸郡ニハ少シ

三、大正九年ニ終ル既往三ヶ年ニ於ケル主要流行町村

患者十名以上ヲ發生セル町村ハ大正七年ニ於テハ天草郡ノ一村四十名ヲ發生セルヲ最多トシ阿蘇郡ノ三ヶ村、其ノ他ハ各郡一ヶ町何レモ最高二十名前後ノ發生アリ

大正八年ニ於テハ本縣中央部山地ナル八代郡ノ五ヶ村(内一ヶ村ハ海岸)最多ク、其ノ他モ概シテ山地ニ多シ、同年ヲ通シテ海岸五ヶ村山地十八ヶ村ナリ

大正九年ニ於テハ阿蘇郡、上益城郡最多シ、即チ縣下ヲ通シテ患者十名以上ヲ出シタル町村二十二中右兩郡ニテ七ヲ占ム、而シテ兩郡ノ患者總數ハ三百二十七名ニシテ同縣下患者數ノ約五分ノ一ヲ占メタリ、其ノ他之ニ類スル地勢ナル八代郡ノ山地三ヶ村ニテ百四十名ヲ出シタル同一

地勢ナル球磨郡ノ山地四ヶ村ニテ百三十餘名ヲ出シタル等アリ、海岸地ハ極メテ少ク僅ニ四ヶ村ヲ數フルノミ

以上ノ如ク各年ヲ通シ概シテ山間部村落ニ多ク全體ノ六割乃至八割ヲ占ムルハ、海岸線相當ニ長キ本縣ノ地勢トシテハ本縣下賜チフス、流行ハ主トシテ山間僻陬ノ地ニ在リト謂フヲ妨ケス

四、大正十年ニ於ケル主要流行町村

大正十年一月以降八月二十日迄ニ於テ患者ノ發生多キ町村ハ他託郡供今村、玉名郡荒尾町、上益城郡白水村ニシテ各四十一名宛ヲ發生セリ、宇上郡松合村ノ三十九名ハ更ニ之ニ次ケリ、右ノ中玉名郡荒尾町ニ於ケル流行ニ付實地視察セルニ其ノ狀況次ノ如シ

玉名郡荒尾町ニ於ケル流行狀況

同町ハ本縣ノ北端福岡縣ニ接シテ存在シ、規模大ナル萬田炭坑ノ所在地ナリ、同町ニ於ケル既往ノ發生狀況ヲ見ルニ大正八年二十四名、同九年二名ニシテ大正十年ニハ八月十一日迄ニ三十九名ヲ發生セリ、今大正十年發生ノ分ヲ届出ニ依リ月別ニ示セハ四月二名、五月二名、六月三名、七月二十四名(上旬三名、中旬十八名、下旬三名)、八月十一日迄四名ナリ、右ノ中七月一日以降二十八名ノ發生ハ同町宇宮内出目ト稱スル部落ニ發生セルモノナリ

宇宮内出目部落ニ於ケル流行當初ノ狀況ヲ見ルニ、七月上旬十日間ニ初發系ト見做サルル九名ノ患者ノ勃發アリ、之カ勃發ノ原因ニ付埋葬許可證發行簿ニ依リ調査スルニ六月中旬前後ニ腸チフスト想像シ得ヘキ死亡者ヲ認メス、恐ラクハ隱微ノ間ニ輕症患者又ハ病原體保有者ニ依リ汚染セラレタル飲食物ノ分與ニ因ルニ非ルナキヤヲ思ハシムルモノアリ、而シテ其ノ後多數ノ

患者續發シ甚シキハ一家五名又ハ三名ノ家族傳染アリシハ一般ニ醫療ヲ乞ハヌシテ賣藥等ヲ用ヒ一家族中臥床者ハ何等ノ障壁ナク飲食シ同居スルノ風習アルカ如キ之カ原因タルヘシ豫防措置トシテ檢病的戸口調査ヲ勵行シ患者ハ全部隔離病舎へ收容セルヲ以テ殆ト七月中旬乃至下旬ノ發生ニテ熄ミタルヲ見レハ全ク無消毒無障壁ノ状態カ多數患者ヲ續發セシメタル原因ナルヘシ醫療ヲ洽カラシメテ輕症患者ト雖醫師ノ手ニ治療セシメ以テ早期ニ診斷消毒又ハ隔離等ノ措置ヲ講セハ該流行ハ無カリシモノナルヘシ

二 豫防施設

一 患者早期發見方法

縣郡市ノ醫師會ト協定シ疑似ノ程度ニ至ラサル注意患者ヲ警察官吏ニ通告スル方法ヲ協定シアリ又各警察官署ニ於テ勤務制ヲ指定シ常ニ檢病的戸口調査ヲ勵行シ居レリ

二 材料検査ノ狀況

細菌検査所ヲ各地ニ増設シ諸種ノ検査ニ兼ネテ不明ナル患者ノ材料検査ヲ行フコトトシ醫師ト連絡ヲ探ルコトニ努メ居レリ細菌検査所ハ本廳ノ外五ヶ所外ニ目下進行中ノモノニケ所アリ斯クノ如キ施設ハ早期發見其ノ他ニ有用適切ナルモノニシテ本縣施設中特筆スヘキモノナリ

三 病原體保有者ノ取締

イ 患者收容後患家ノ消毒ヲ了シタル後當該患家ヲ中心トセル豫防區域内ノ各戸ニ十四日間毎日一回便池ニ石炭乳ヲ投入セシム

ロ 患者退院退舎後二十一日間前同斷

ハ 患者十名以上發生シタル部落ニハ其ノ豫防區域内各戸ニ其ノ終熄後三十日間前同斷

凡ソ以上ノ如キ方法カ的確ニ行ハルレハ病原體保有者等ニ因ル病毒ノ傳播防止ニ付相當有効ナルヘキモ實情ヲ見ルニ徹底セサルコト多キヲ遺憾トス

四 消毒所、消毒班ノ設置

設置ナシ

五 療養隔離ノ狀況

腸チフス患者ハ病院病舎收容主義ヲ採リ自宅療養ノモノハ一ヶ年ヲ通シテ僅ニ數名ニ過キス、收容患者ノ治療ハ專ラ當該市町村醫ヲシテ之ヲ爲サシム

六 飲料水、家用下水ノ改良狀況

縣下不良水改善調査表ニ依レハ不良井戸八、一三四個中四、七七九個ノ改善ヲ施シタリト云フ其ノ内譯ヲ見ルニ單ニ化學的ノ水質改良ノ目的ヨリ改善セシメタルモノ及汚水ノ浸入ヲ防キタルモノハ四、三〇五個ニシテ全改善個數ノ實ニ九割ヲ占メ居レリ防疫上安全ナル水ノ供給ニ付テハ物足ラヌ觀ナキ能ハス

又縣下ハ山地多ク從テ溪流水多キ地方ニアリテハ之カ爆發的流行ノ原因ヲ成スコト多カルヘシ此レ等ノ地方ニ危険ナキ飲料水ノ共同供給ノ施設ヲ講スルハ最必要ニシテ又可能ナル地多シ

下水ノ改良ニ就テハ熊本市及郡部一ヶ町ニ下水路ノ改築ヲ進行中ナル外見ルヘキモノナシ

七、豫防接種施行ノ狀況

大正八年中阿蘇郡山西村ニ於テ全村民三千餘人ニ對シ腸チフス豫防接種ヲ行ヒタリ

大正九年中八代郡柿迫村ニ於テ七百餘人ニ對シ同接種ヲ行ヒタリ

大正十年中玉井郡腹赤村ニ於テ二千二人ニ對シ同接種ヲ行ヒタリ

縣下一般ニ豫防接種ヲ特ニ嫌フノ風ナキモ、縣ニ於テ豫防液ヲ製造シ無償配布ヲ爲サンカ爲、大

正九年度、ワクチン製造費豫算一、五二〇圓ヲ縣會ヘ提出シタルニ醫師議員ノ主唱ニ依リ右ハ否

決セラレタリ

八、蠅驅除ノ狀況

特記スヘキモノナシ

九、豫防智識ノ涵養方法

大正十年三月以降各市郡ノ衛生吏員警察官吏ヲ各市郡毎ニ召集シ主トシテ防疫上ノ講習(一市郡毎ニ三日間宛)ヲ爲シタリ、講習人員八百名ヲ數ヘタルハ相當効果ノ見ルヘキモノアルヲ豫期シ得ヘシ

十、傳染病豫防法令ニ關スル特殊縣令、訓令、通牒等

大正十年八月醫師會長トノ協定事項ニ關シ市郡長、警察官署長ニ通牒シタルモノヲ特殊ノモノトス

十一、傳染病豫防費

大正八年度ニ終ル既往三ケ年度ノ狀況左ノ如シ

年 度	縣 費 支 出 額	國 庫 補 助 額	備 考
大 正 六 年 度	三九、七八三・六九〇	六、六三〇・六一四	
大 正 七 年 度	四五、三五七・四一〇	七、五五九・五六八	
大 正 八 年 度	八五、〇六七・三三〇	一四、一七七・八七一	

十二、傳染病院、隔離病舎ノ設置及管理狀況

一定ノ管理規程ヲ設ク、縣下三ケ村未設置ノモノナリ、建築費、修繕費ノ補助ハ從來六分ノ一ナリシヲ特別ノ場合ハ三分ノ一迄補助シ得ルカ如ク規程ヲ改正シ、漸次三分ノ一迄補助スルコトトセリ

十三、傳染病院、隔離病舎ヘ入ラシメタル患者ノ食費、藥價徵收狀況

徵收シ居ル町村ハ各地ニ少數存在シ稀ニハ食費ノミ患者ノ直接支辨ト爲シ居ルモノアリ

十四、其他參考トナルヘキ特殊施設

特記スヘキハ細菌検査所ノ増設ニシテ其ノ本廳ニ於ケルモノハ検査室、消毒室、動物解剖室其ノ他ニテ七十二坪アリ、設置亦相當完備セリ、其ノ他郡部ニ於ケル細菌検査支所ハ左表ノ如ク既設ノモノ五、建設中ノモノ二アリ

鹿本縣山鹿町細菌検査支所

八代郡八代町細菌検査支所

球磨郡人吉町細菌検査支所

天草郡本渡町細菌検査支所

阿蘇郡宮地町細菌検査支所

(以上既設ノモノ)

玉名郡高瀬町細菌検査支所

上益城郡御船町細菌検査支所

(以上建設中ノモノ)

各細菌検査支所ハ多クハ警察官署構内ニ特設シ、ニケ所千圓乃至千五百圓ノ建築費ニテ十坪前後ノ建物ヲ新築シ醫師一名小使一名ヲ專屬シ醫師ハ他要務ヲ兼ス、醫師ノ俸給旅費ヲ除キ一ヶ所一ヶ年ノ經費約千圓ヲ支出シ居レリ

十五、豫防施設ニ關スル今後ノ方針

腸チフス患者絶對收容主義ヲ緩和シ或程度迄主治醫ノ手ニ依ル自宅治療ヲ認ムルハ早期ニ公然消毒ヲ行ヒ得テ隱蔽ニ因ル病毒散蔓ヲ防キ得ヘキカトハ縣衛生當局者ノ夙ニ考慮計畫セシ處ナリシモ、或者ハ自宅ニ或者ハ病舎ニト云フカ如ク區別スルハ、一般縣民ヨリ之レ黨派的差別待遇ナリト誤認セラレ易ク且常ニ問題ヲ惹起スルノ根アリトシ、尙考慮ヲ要スヘキモノトシテ當分現在ノ隔離主義ヲ持シ、一面隔離病舎ニ對スル補助額ヲ増加シテ三分ノ一ノモノヲ多クシ以テ病舎ノ完備ヲ圖リ、他面市郡町村吏員ノ豫防智識ノ向上ヲ圖リ、又細菌検査所ノ増設ト醫師會トノ協議實行トニ依リ本病豫防ヲ爲ス方針ナリト云フ

大正十三年三月十四日印刷
大正十三年三月十五日發行

内務省衛生局

印刷者 田名綱 徳次郎

東京府北豊島郡王子町榎町五百五十五番地

印刷所 王子印刷株式會社

東京府北豊島郡王子町榎町五百五十五番地

